

あなたとあなたの大事なペットを守るために… ペットの災害対策をしていますか

ペットを飼育するご家庭では、災害に備えての日頃からの準備が大切です。下記の項目に対応できているか、改めて確認してみましょう。

【問い合わせ】環境政策課生活環境保全担当 (☎282-1711 内線1452)



【健康管理としつけ】

- 予防接種や外部寄生虫の駆除を済ませている
- 最低限のしつけや、飼育ケージに慣らす訓練をしている

【逸走の防止と所有者の明示】

- 首輪やリードをしっかりつけている
- 鑑札や狂犬病予防注射済票、迷子札をつけている

【ペットの避難用品の準備】

- フードやトイレ用品など、避難用品を準備している

【住まいの防災】

- 飼育ケージの確保や固定、転倒防止(屋外飼育の場合は外塀やガラス窓の近くを避ける)を行っている

【一時預け先の確保】

- ペットの緊急時の一時預け先(親戚や知人等)を確保している

ふるさと歴訪
〜歴史を再発見〜

前東海村教育委員

西野 晉哉

真崎浦干拓の始まり〜西野長治郎〜

真崎浦の干拓は、江戸時代の末、安政3(1856)年に始まりました。干拓を始めたのは、湊村(現・ひたちなか市)平磯の酒造家、「西野長治郎」です。

長治郎が真崎浦の干拓を決意したきっかけは、弘道館で共に学び親交の深かった、照沼村(現・東海村照沼)に住む横目付の照沼市郎左衛門の息子、照沼啓介(後に市郎左衛門を襲名)から、真崎浦の水害について聞いたことです。真崎浦を干拓することで水害を防ぐとともに、水田での稲作で人々の生活が安定すると考えたのです。このことは、当時水戸藩の進めていた農村復興にも添うものでした。

では、西野長治郎とはどのような人物だったのでしょうか。彼が親から継いだ家業は「升屋」という造り酒屋でした。升屋では、年間に700石から800石を酒造しており、これは当時、酒を運搬するのに使った四斗樽(祝賀会で鏡開きに使われる樽)で見ると、1750個から2000個になり



【升屋が使用していた焼印(左から「屋号」「西野専用」「二し乃の3文字で酒を持ち歩く(ひさご)を表したもの)】

ました。そのほかに漁船も持ち、多くの土地を有して貸していました。また、水戸藩校弘道館の平磯分館長も務めていました。しかし分館長だったことが後に、水戸藩の内戦「那珂湊の戦い」(元治元(1864)年)で干拓事業を中断させられるという、残念な一因となってしまったのです。

水戸藩に干拓工事の申請を許可されたのが安政3年。長治郎は造り酒屋を閉め、財産を整理して湊村を引き払い、村松の地に移住します。同年7月、長治郎が38歳の時でした。干拓工事のために用意した金額は2000両といわれ、これは現在の金額にすると4億円ほどでしょうか。屋敷地内に

築山回遊式池泉庭園を築き、真崎浦から水を引き、その水路を使って舟で工事監督に向かったようです。工事に着手したのは8月。まず取り組んだのが、沼水を海に流すために新川を掘ることでした。その後、さらに細浦の中央排水路、西側の道路とその道路に沿って水門を作り、20余町が干拓されました。